

令和4年度

教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検・評価報告書



幼稚園あいさつ運動



中学生だっぴ



花ござピンポン世界大会



子ども議会

令和5年3月

早島町教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
	① 点検評価の趣旨	
	② 点検評価の対象及び方法	
II	教育委員会の活動状況	2
	① 教育委員会会議の開催	
	② 研修会及び協議会	
	③ 総合教育会議	
III	教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況	5
1	教育委員会の体制	5
2	教育委員会の点検・評価の視点	5
3	教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価	5
	① 会議の運営等	
	② 教育委員会の公開性	
	③ 基本的・総務的な事務の管理	
	④ 人的管理事務	
4	学校教育重点事業に対する評価	9
	① 数値結果	
	② 重点事業	
5	生涯学習重点事業に対する評価	15
	① 重点事業	
IV	第5次早島町総合計画の評価項目について	22
V	点検・評価に関する有識者からの意見	23
VI	おわりに	24

I はじめに

① 点検評価の趣旨

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、全国の教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出し公表することが義務づけられました。

本報告書は、地教行法第26条に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものです。

② 点検評価の対象及び方法

教育委員会が令和4年度に実施した事務事業のうち、主要事業について自己点検し、評価を行いました。

また、本報告書を作成するに当たっては、教育委員会に意見を求め、個々の事務事業だけでなく総合計画・基本計画の施策体系を視野に入れ、課題や今後の方向性などについてまとめました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

① 教育委員会会議の開催

教育委員会の委員

役職名	氏名	性別	任期
教育長	白神 敬祐	男	R4. 4. 1 ~ R7. 3. 31
教育長 職務代理者	栗坂 祐子	女	R4. 10. 1 ~ R8. 9. 30
委員	綾野 克紀	男	R2. 4. 1 ~ R6. 3. 31
委員	市橋 晃	男	R3. 4. 1 ~ R7. 3. 31
委員	岡本 善弘	男	R4. 4. 1 ~ R8. 3. 31

審議案件等

開催日	議決等事項
4月25日(月)	【議決事項】 (1) 早島町通学路安全推進会議設置要綱の改正について (2) 早島町立幼稚園給食実施規則の改正について 【議事事項】 (1) 令和4年度の施策について (2) ランドセル支給事業について
5月27日(金)	【議事事項】 (1) 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について (2) 令和4年度地域運動部活動推進事業について (3) 第3次早島町子ども読書活動推進計画について (4) いかしの舎指定管理について
6月30日(木)	【議事事項】 (1) 早島中学校授業参観について (2) 6月議会報告について
7月22日(金)	【議事事項】 (1) 部活動の地域移行について (2) わくわくサマータイムについて

8月26日（金）	【議事事項】 (1) 市町村教育委員会教育長・教育委員研究協議会について (2) 学力・学習状況調査（概要）について (3) 今後の児童・生徒数推移について
9月27日（火）	【議決事項】 (1) 早島町立幼稚園園則の一部改正について 【議事事項】 (1) 働き方改革について
10月19日（水）	【議事事項】 (1) 早島小学校授業参観について (2) 9月議会報告について (3) 子ども議会について (4) 定年引上げについて
11月25日（金）	【議決事項】 (1) 早島町立学校給食費の管理に関する条例の制定について (2) 早島町立学校給食費の管理に関する条例施行規則の制定について 【議事事項】 (1) 令和4年度早島町通学路等合同点検の結果について
12月23日（金）	【議決事項】 (1) 早島町立学校給食費支援金交付要綱の制定について (2) 早島町立幼稚園給食実施規則の一部改正について 【議事事項】 (1) 12月議会報告について
1月13日（金）	【議事事項】 (1) 問題行動報告について (2) 岡山県学力定着状況確認テストの結果について
2月24日（金）	【議事事項】 (1) 早島幼稚園参観について (2) 早島町スポーツ施設条例の制定について
3月13日（月）	【議決事項】 (1) 早島町教育委員会事務局組織規則の全部改正について (2) 早島町特別支援教育支援委員会設置条例の一部を改正する条例について (3) 早島町立学校食育推進委員会設置条例の一部を改正する条例について (4) 早島町立学校給食費の管理に関する条例施行規則の制定について (5) 早島町スポーツ施設条例施行規則の制定について

② 研修会及び協議会

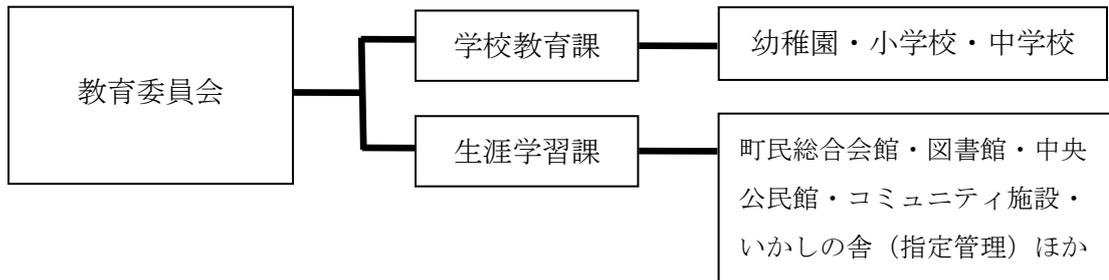
開催日	研 修 会 名 等
9月 3日 (土)	早島中学生だっぴ 参加者：教育長、教育委員1名
9月	令和4年度岡山市町村教育委員会連絡協議会総会 (書面開催)
9月 8日 (木)	令和4年度市町村教育長・教育委員研究協議会 (Web会議) 参加者：教育長、教育委員2名
11月30日 (水)	令和4年度岡山市町村教育委員会委員研修会 (Web会議) 参加者：教育委員2名
3月 4日 (土)	第7回はやしま子どもフォーラム、熟議 参加者：教育長、教育委員1名

③ 総合教育会議

開催日	議 決 等 事 項
8月26日 (金)	第1回総合教育会議 【議事事項】 (1) 学力・学習状況調査について (2) 今後の児童・生徒数推移について
2月24日 (金)	第2回総合教育会議 【議事事項】 (1) 令和4年度点検と評価について (2) 令和5年度主要事業について

Ⅲ 教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

1 教育委員会の体制



2 教育委員会の点検・評価の視点

点検・評価を行う視点としては、次の項目を基本として行う。

点検・評価の視点	点検・評価する主な内容
① 会議の運営等	会議の回数、円滑な進行
② 教育委員会の公開性	委員会の公開、事業内容等の広報、町長等との連携
③ 基本的・総務的な事務の管理	方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
④ 人的管理事務	教職員等の人事、教育委員会研修の実施

3 教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価

① 会議の運営等

(1) 会議の回数、円滑な進行

【成果】

- 教育委員会12回、総合教育会議2回行った。
- 議案、協議事項の審議及び報告について厳正に行われた。また、事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局との間で意見交換を行った。
- 学校園の授業公開日や行事等に参加して状況を把握し、会議を各学校園で開催して管理職との協議を行った。

【評価】

- ・毎回の会議で、事業の進捗状況や学校園の様子を理解するなど、円滑に協議を行うことができた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインで会議へ参加することが可能となり、会議の充実を図ることができた。

② 教育委員会の公開性

(1) 委員会の公開、事業内容等の広報

【成果】

- 早島町学校教育ビジョンやはやしま学支援本部の活動等は、ホームページや町広報紙

等で広報した。

○教育委員会会議の会議録は毎月ホームページに掲載した。

【評価】

- ・教育委員会の開催については事前に告示し、会議録は毎月ホームページ上に公開しており、町民に広く周知することができた。
- ・学校園の取組やはやしま学協働本部を中心とした教育活動などを、新聞やテレビなどのメディアも活用して、町民だけでなく町外にも広報していく必要がある。

(2) 町長等との連携

【成果】

- 年2回開催した総合教育会議では、学力・学習状況調査の説明や、今後の児童生徒数推移についての状況説明を行い、毎週の町課長会議等では学校教育や生涯学習等について適宜情報提供を行った。
- 幼小中合同の学校運営協議会の事務局を中学校に置き、年6回実施した。保護者の学校評価を年2回実施し、幼小中共通の評価項目を作成し、経年変化を見取り、教育委員会でも成果や課題の共通理解を図った。また、学校関係者評価を年2回実施し、学校運営の改善につなげた。

【評価】

- ・学校運営協議会については、学校支援部会・地域支援部会・家庭支援部会の3部会の充実により、積極的な学校支援に取り組んだ。
- ・学校教育ビジョンの推進に向けた「英語暗唱大会」「子ども議会」等では、一定の成果を上げており、子どもたちからの提案・発表等が地域の活性化につながっている。

③ 基本的・総務的な事務の管理

(1) 方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施

【成果】

- 国の動向を踏まえ、教育行政重点施策の策定や、規則の改正等に向けて、充実した審議を行った。
- 施設整備としては、中学校南棟外壁等非構造部材耐震改修工事、中学校体育館フローリング研磨ウレタン塗装、小学校遊具設置、小・中学校大型テレビ設置を行い、教育環境を整えてきた。
- 生涯学習課の事業については、事業評価シートで、事業の妥当性・効率性・公平性などの評価を行った。

【評価】

- ・小・中学校校舎の非構造部材耐震改修工事を適宜進めており、安心して過ごしやすい学習環境を整えているが、校舎の老朽化が進んでおり、今後とも計画的・継続的に整備を進めていく必要がある。

④ 人的管理事務

(1) 教職員等の人事

【成果】

- 小中学校においては35人以下学級を継続している。
- 小1グッドスタートは、県の配置（4月～10月）に加え、町独自で、11・12月を実施し、4月～12月まで教育支援員を配置した。
- 小中学校に学校司書を配置し、町立図書館と連携しながら、計画的な蔵書整備など図書館の環境整備を行い、読書活動の充実を図った。
- 不登校対策として、小学校に登校支援員2名、中学校に心の教室の教育支援員を配置し、登校しにくい児童への家庭訪問や別室登校の場の提供など、効果的な支援を行った。
- 業務アシスタントを、小中学校に配置し、働き方改革の充実を図った。
- ICT教育支援員を配置し、タブレット端末等の積極的な活用に向け支援を行った。

【評価】

- ・教科担任制や学力向上を進めていくにあたり、小中学校の町費講師の配置を行い、効果的に運用できている。
- ・小中学校における35人以下学級、小1グッドスタートの延長、教育支援員の配置は、個別の支援を要する子どもや落ち着いた学習環境のために継続していく必要がある。
- ・GIGAスクール構想の実現に向け、学習ソフトの導入やICT教育支援員を配置することで、教員のICT機器の活用能力が向上し、積極的な活用に結び付いた。

(2) 教育委員会研修の実施

【成果】

- 第2回学校教育ビジョン全体会では、井上栄子氏を講師に招き、「子どもを見る視点を揃える」というテーマで講義・研修を行った。発達支援の仕組みについての共通理解を図った。
- 夏季研修会では、インクルーシブ教育の基本的な考え方について、青山新吾氏を講師に招き、個々が必要とする様々なニーズに対して「合理的配慮」を行いつつ、多様な子どもたちがともに学んでいけるよう共通理解を図った。また、岡山県教育委員会人権教育・生徒指導班の高森英郎氏を講師に招き、長期欠席・不登校児童生徒に対する学校の組織的対応や心の教育の充実、効果的な登校支援の充実のために、支援対象者リストの活用の仕方についての共通理解を図った。
- 採用5年目までの教員と講師を対象にした若手教員研修会では、道徳教育や学級経営に関することについて、講師を招聘して講義・演習を行った。「心を育てる道徳教育の学習指導案の作成・模擬授業」「絆づくり・居場所づくり」について理解を深め、2学期からの実践につながる学びとなった。
- 幼・小・中の支援員を対象にした特別支援教育支援員研修会では、栗尾康子氏を講師に招き、支援が必要な子どもに対して、どのように声をかけるか、誰もが分かりやすい支援とは何かなどについて事例をもとに講義・演習を行った。

【評価】

- ・夏季教員研修会では、発達支援の在り方についてグループ協議を取り入れたことで、一人一人の教員が授業の中でどのような支援が必要かを具体的に考え、意見を出し合い、実践につなげることができた。
- ・若手教員研修では、道徳教育の模擬授業や発表を通して、心を育む具体的展開について深く考えることができた。学級経営に関することでは、児童生徒のかかわり方や考え方等の基本について学ぶことができ、参加者の95%以上が、有意義な研修となったと回答していた。
- ・特別支援教育研修会は、昨年と継続して栗尾康子氏を招聘したことで、支援の方向性に統一感が生まれ、子どもの変化について相談しやすい雰囲気があり、支援員から好評であった。支援員だけでなく、通常学級でも生かせる内容であるため、教職員全体において周知していく必要がある。

4 学校教育重点事業に対する評価

① 数値結果

項目	県 (R4の現 状)	県目標値 (R6)	早島小		早島中	
			R3	R4	R3	R4
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差(小6中3)	【小6】 国：1.4 算：1.2 理：0.7 【中3】 国：0 数：▲0.4 理：▲0.3 (▲マイナス)	全国平均 正答率 +1ポイント	【小6】 国：2.3 算：1.8	【小6】 国：▲2.6 算：▲3.2 理：▲3.3	【中3】 国：1.4 数：4.8	【中3】 国：3.0 数：3.6 理：2.7
授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(小6中3)	小6 67.1% ----- 中3 64.9%	73.0% ----- 76.0%	56.3%	56.4%	62.8%	57.9%
「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合(小6中3)	小6 61.3% ----- 中3 42.2%	70.0% ----- 50.0%	66.2%	57.3%	41.3%	62.0%
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童生徒の割合(小6中3)	小6 52.0% ----- 中3 42.5%	60.0% ----- 50.0%	60.2%	70.9%	51.2%	49.6%
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合(小6中3)	小6 46.6% ----- 中3 41.9%	50.0% ----- 50.0%	43.7%	41.0%	49.6%	41.3%
「スマートフォン等の利用に関して『家庭のルールを守っている』と回答した児童生徒の割合(小6中3)	小6 70.1% ----- 中3 64.8%	65.0% ----- 55.0%	68.2%	76.9%	65.3%	61.2%
1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合(小5中2)	小5男子 8.7% 中2男子 7.1% 小5女子 14.3% 中2女子 16.4%	5.2% 5.8% 11.0% 21.2%	小5男子 17.2% 小5女子 11.6%	小5男子 15.5% 小5女子 22.4%	中2男子 5.7% 中2女子 27.7%	中2男子 14.9% 中2女子 27.3%

○小中一貫教育の推進

項目	指標	評価方法	R3	R4	目標
一貫教育の推進	校種間の連携を大切にした教育活動を行っている教員	教員アンケート	小 81% 中 73%	小 88% 中 78%	90%
	保幼小中が一貫した教育活動に取り組んでいると思う保護者	保護者アンケート	小 90% 中 79%	小 89% 中 81%	90%
授業研究の推進	授業は分かりやすいと思う児童生徒	児童生徒アンケート	小 92% 中 79%	小 94% 中 83%	90%
探究的・協働的な取組	生活・総合的な学習の時間に、問題解決に向けて自ら熱心に取り組んでいる児童生徒	児童生徒アンケート	小 85% 中 85%	小 96% 中 86%	90%
地域貢献活動の推進	地域の行事に参加している児童生徒	児童生徒アンケート	小 59% 中 41%	小 60% 中 44%	65%

○「はやしま学」の充実

項目	指標	評価方法	R3	R4	目標
はやしま学協働本部との連携	放課後・土曜はやしま塾を積極的に活用する児童生徒	一週間の平均参加者数	小 198名 中 18名	小 179名 中 12名	220名 30名
	英検・漢検・数検に参加する児童生徒	延べ参加者数	小 239名 中 277名	小 190名 中 316名	250名 300名
	学校外の人材活用を進めていると思う保護者	保護者アンケート	小 80% 中 79%	小 80% 中 79%	85%

○ICT教育の推進

項目	指標	評価方法	R3	R4	目標
ICT機器等の活用	ICT機器を活用した分かりやすい授業づくりを進めている教員	教員アンケート	小 100% 中 96%	小 88% 中 91%	95%

○きめ細やかな支援の充実

項目	指標	評価方法	R3	R4	目標
児童生徒理解と個への対応	多面的な児童生徒理解や個への対応に努めている教員	教員アンケート	小 93% 中 91%	小 93% 中 91%	90%
教育相談の充実	悩み事や困ったことを相談しやすいと思う先生がいると思う児童生徒	児童生徒アンケート	小 86% 中 73%	小 90% 中 75%	90%

○グローバル人材育成事業

項目	指標	評価方法	R3	R4	目標
外国への理解	英語暗唱大会に参加する児童生徒	参加者数	小 19名 中 15名	小 6名 中 21名	小 20名 中 20名
	土曜英会話塾に参加する児童生徒	参加者数	小 15名 中 4名	小 20名 中 1名	小 20名 —

② 重点事業

重点項目	一貫教育の推進
目的	確かな学力と豊かな人間性、健やかな健康・体力を備えた、幼児・児童・生徒の育成に資するよう一貫教育の推進を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・幼稚園・小学校・中学校の15年間で目指すべき子ども像を踏まえた、付けたい力を明確にした授業改善に取り組み、教員の指導力向上を図る。 ・ 小学3年生～6年生、中学1年生～3年生に学力・学習状況調査を行い、児童生徒の学力を把握・分析したものを基に、小中学校の各教科で合同教科会を行い、全教職員で効果的な指導法を共有したり、授業改善を徹底したりすることで教育効果を高める。 ・ キャリア・パスポートを活用し、学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を通して主体的に学びに向かう力を育成する。 ・ はやしま学園運営協議会では、幼小中の共通項目と独自項目で、学校関係者評価を実施し、保護者・地域・有識者の意見を反映した学校改善を行う。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学4年生～6年生で、教科担任制を導入し、副担任として専科1名を配置した。専門性を生かした授業改善を図るため、研究授業を定期的で開催し、ユニバーサルデザインの視点で協議をしていくことで、誰もが参加しやすい授業づくりに取り組んだ。 ○ 早島町学校教育ビジョン推進委員会を年4回開催し、全教職員による全体会を年3回実施した。保幼小中の教職員を9部会に分けて、各部で一貫教育に向けた研究に取り組んだ。 ○ 全国、岡山県学力・学習状況調査を実施し、その結果を踏まえて、学力向上担当者を中心に、業者と共に分析を行った。そこで明らかになった課題を校内に持ち帰り、課題の把握や基礎基本の定着に向けた取組について協議を行い、全教員で授業改善を行った。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一貫したカリキュラムの構築に向けて、早島町学校教育ビジョンで重点項目を決めて意見交流を行い、特色あるカリキュラムを作成する。 ・ 小学校では、継続して教科担任制を拡充し専門性を生かした授業づくりに取り組んでいく。授業で適用問題に取り組み、家庭学習で復習時間をとるなど、学習内容の定着に向けて取り組む。 ・ 学力向上担当者を中心に、児童生徒が主体的に学習に取り組むための効果的な指導法や、ユニバーサルデザインの研究を進め、すべての児童生徒が参加しやすいように、必要な支援の在り方についての情報を共有しながら、各教科等の授業改善に取り組む。 ・ 特別支援学級担任の専門性の向上を図るため、ICTをツールとして効果的に取り入れる等、カリキュラムの再構築に学校園が一体となって取り組む。

重点項目	社会とつながり未来を拓く「はやしま学」の充実
目的	早島町学校教育ビジョンに基づき、「はやしま学」の充実を図る。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育支援コーディネーターを中心に支援体制を構築し、放課後・土曜はやしま塾を支援する大学生や留学生の確保、地域住民等による「早島っ子サ

	<p>ポートボランティア」の人材確保をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に4～6年生を対象に「わくわくサマーホリデイ」を開催し、地域の方や学生ボランティアを講師として学習や体験活動の充実を図る。 ・「子ども議会」「子どもと大人の熟議」「はやしま子どもフォーラム」「早島英語暗唱コンテスト」「中学生だっぴ」等を活用し、社会に開かれた学びの場づくりを行う。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の地域での学びの機会を保障するため、土曜・放課後はやしま塾や土曜英会話は感染予防を行って実施した。特に、土曜はやしま塾は、感染予防のため、1～3年生と4～6年生の学習時間、場所を分けるなど工夫を図った。しかしながら、「English Bus ツアー」や「科学バスツアー」は中止せざるをえなかった。 ○英語で表現豊かにコミュニケーションをしようとする力の育成を目指して12月に英語暗唱コンテストを開催したが、小中学生27名が参加し、英語への意識の高まりを年々感じる。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況等を鑑みながら、土曜・放課後はやしま塾、土曜英会話、ロゲイニング等の更なる工夫を行っていく。 ・土曜・放課後はやしま塾で、算数・数学に焦点を当てた学力保障を行う。 ・教育支援コーディネーターを中心とした支援体制のもと、大学生や留学生の活用、地域住民、保護者による「早島っ子サポートボランティア」の計画的な人材確保に努める。 ・「ボランティア・パスポート」を活用し、生徒の社会貢献意識を高め、地域行事への積極的な参加を促す手だてを工夫する。 ・英語・漢字・数学検定を年3回ずつ実施し、英語検定では、早島町英検受験応援制度を活用して、中学3年生までに英検3級以上の取得を目指すよう工夫する。 ・中学校では、学校の学習進度に合った学びとするため、学校の支援員や地域ボランティアが中心となって放課後はやしま塾を実施していく。

重点項目	I C T教育の推進
目 的	I C T機器の活用により、児童生徒の主体的な学びや学力向上、校務の情報化による教員の事務負担の軽減等を図る。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・I C Tを活用した小中一貫カリキュラムや年間指導計画を作成し、児童生徒がI C Tを日常的に活用する場面を計画的に設定し、個別最適化な学びや協働的な学びの実現を図る。 ・自学自習用のweb教材「タブレットドリル」や、G Suiteの課題提示やオンライン会議の機能を活用して、家庭学習の充実や不登校児童生徒への支援を図る。 ・I C T支援員を配置し、I C Tの積極的な活用に向けて、授業支援や環境整備を行う。

成 果	<p>○小中学校に I C T 教育支援員を配置し、一緒に環境整備やシステム支援等の専門的なサポートを行い、教職員の積極的な I C T 活用を進めるとともに、教職員の負担軽減にも繋がった。</p> <p>○タブレットドリルの改善に向けて提案したり、豊かな授業づくりに役立つ授業支援ソフトを紹介したりして、一人一人に応じた学習や協働学習を積極的にを行い、児童生徒の学習意欲を高めるための取組を行った。</p> <p>○1人1台タブレット端末や Google Workspace 等を活用し、オンラインによる課題提示や提出を行った。また、週1回端末の持ち帰りを実施に向けて取り組んだ。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習と授業の連動に向けて、また、長期休業中の持ち帰りに向けて、宿題や課題の設定等について協議をすすめる。そのために、継続的に「教育の情報化推進委員会」を開催し、情報化推進リーダーのもと校内研修の充実を図り、全教職員の I C T 機器を効果的に活用した指導力の向上を図る。 ・タブレットドリルや授業支援ソフトの活用を進め、一人一人に最適な学習支援を行い、分かる授業や主体的な家庭学習支援に努める。 ・課題提出や学習評価の他に、職員連絡等の校務にもアプリを積極的に活用し、教職員の児童生徒と触れ合う時間の確保と働き方改革を行う。 ・デジタルシティズンシップ教育に向けて、情報モラルを育むための視点を大切にされた指導力の向上を図る。 ・フィルタリングソフトを導入し、セキュリティを確保したうえで、タブレット端末の持ち帰りを実施し、家庭学習での I C T 利用を推進に向けた環境整備を行う。

重点項目	きめ細やかな支援の充実
目 的	町ふれあい教室やこころの教室への心の支援や学習サポート対応、個別の支援を要する児童生徒へのサポート、入学した小学1年生の生活習慣や学習習慣づくりへの支援等、個の教育ニーズを把握し適切な支援を行う。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー（S C）やスクールソーシャルワーカー（S S W）と連携し、児童生徒や家庭のニーズに応じた支援を行う。 ・「不登校対策担当者会」を年5回開催し、登校支援員・担当教員・教育委員会・健康福祉課や備中保健所等と情報共有し、個に応じた指導・支援を適切に行う。また、学習サポートとして、I C T を活用した学力保障を行う。 ・小学校では、毎週水曜日の放課後に小学2・3年生、金曜日の放課後に小学1年生を対象に、算数の単元別確認問題、既習事項の復習問題や発展問題にも取り組み、学習内容の定着や学習習慣を形成する。
成 果	○不登校対策担当者会に、健康福祉課、登校支援員、S C、S S W、備中保健所担当者も参加し、校種を越えた情報連携や支援の方向性の協議を行うことで学校園と関係機関の連携強化を図った。

	<p>○教室に入りにくい長期欠席、不登校児童生徒について、小中学校では自立応援室での居場所づくりをサポートすることができた。</p> <p>○小学校では、登校支援員2名、小1グッドスタート4名、生活支援員8名を配置し、個に応じた支援を行うことができた。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・小1プロブレムの解消のため、スタートカリキュラムの更なる充実と、支援員の継続した配置を進める。 ・コロナ禍で登校に不安を抱えている児童生徒も増加しているため、関係機関との連携を密にしながら、長期欠席・不登校の減少に取り組む。 ・新規不登校者数を抑制するために、魅力ある学校づくりの観点から、安心して学校で過ごすことができるような取組を行う。また、継続不登校者数を改善するために、ステップアップ支援シートを活用し、支援の在り方について協議を継続して行う。

重点項目	グローバル人材育成事業
目的	外国や日本の文化に慣れ親しみ、英語でのコミュニケーション能力を高め、国際的視野を広げる。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小学5・6年生と中学2年生の外国語科の授業で、オンライン英会話を行い、実践力を高める。 ・英語検定3級以上の取得に対して、同一級1回の受検料を無料とし、受検者数の増加を図るとともに、中学3年生卒業段階で8割以上の生徒が3級以上を取得できるよう目指す。 ・小学校での英語教育の充実を図るため、小学校に英語専科教員を配置し、中学校の英語教員との連携・協働を行う。
成果	<p>○フィリピンとのオンライン英会話を実施し、小学校5・6年生では3～4名のグループで、中学2年生では1対1で会話を行い英語に触れながら実践力を高めることができた。</p> <p>○毎週水曜日、小学校のALTが幼稚園を訪問し、歌やゲームをとおして楽しく英語に慣れ親しんでいる。</p> <p>○今年度、英語検定3級以上の受験者数はのべ142名となり、同一級1回の受検料を無料となる応援制度も周知され、受検者数、合格者共に増加した。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生までに英検3級以上の取得を目指して、英検受験応援制度の周知と活用をさらに推進する。 ・小学校の専科英語教員の配置や5・6年生で小グループでのオンライン英会話、中学校2年生で生徒一人一人にオンライン英会話の機会を設定し、自分の考えや思いを英語で意見交換する場づくりを行う。

5 生涯学習重点事業に対する評価

① 重点事業

重点項目	社会教育施設等整備事業
目的	施設の整備を行い、個々の学びに応える環境づくりを目指す。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・いかしの舎の自動火災警報装置及び誘導灯の更新を行い安心安全な環境を整備する。 ・町民総合会館のトップライトガラス・壁クロスの修繕を行い施設の環境を整える。 ・西コミュニティセンターの老朽化した畳の張替を行い、快適な生涯学習の環境を整える。 ・床田池の解説看板を修繕し、歴史・文化的意義を分かりやすく伝える。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○各施設の整備を行い学びの環境を整えることができた。 ○床田池の解説看板のリニューアルすることができた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の高耐久化や安全性向上を目指し、計画的なリニューアルを行う。 ・文化ホールの吊り天井の調査を実施する。 ・ゆるびの舎の火災警報装置のリニューアルを実施する。

重点項目	社会教育推進事業
目的	家庭教育支援チームによる子育てや家庭教育の支援、親育ち応援プログラムのファシリテーター養成と親プロ等の実施、プレーパークによる親の集いの場づくり等を一体的に行い、地域全体で家庭教育支援をする体制の構築を進める。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チームによる、子育てや家庭教育の情報提供や相談、親育ち応援学習プログラム等の実施による保護者の学びの場づくり、各種講座や教室による保護者同士の仲間づくりの支援を行う等、一体的な家庭教育支援を支援する。 ・「すくすくハート」会議により、町内の家庭教育関係者の情報共有を行い、家庭教育支援の仕方を検討する。 ・親育ち応援学習プログラムのファシリテーター養成を行い、保護者同士の学び合いを推進し、家庭教育推進の人材育成を行う。
成果	○家庭教育支援に関する事業を実施することができたが、計画通りの交流や連携が実施できなかつたので活動の広がりがなかつた。
今後の方向性	・家庭教育に関する取り組みの連携や交流を再開し、保護者同志の仲間づくりの支援になるようにする。

重点項目	青少年活動推進事業
目的	学習支援や体験活動を中心とした地域ぐるみの教育体制を築きながら、郷土愛を深め、学びを通して地域の活性化に繋げる。
計画	・ロゲイニング等、地域を学びのフィールドとした活動的な学びの場を提供し、郷土愛の育成に繋げる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での英会話体験などへ子どもたちを参加させることにより、より高度な学びを体験させ、子どもたちの学ぶ意欲や知的な好奇心などを高める。 ・地域の指導者等による長期休業中の小学生に、「わくわくサマーホリデー」を開催し、様々な体験活動によって視野を広げる。 ・数学検定・漢字検定・英語検定3級以上の取得を目指し、支援体制をつくる。 ・地域の方や教職員等がスタッフ・講師として参加するなど、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制の構築を目指す。
成 果	○学習支援や体験活動を中心とした地域ぐるみの教育体制を継続し、学ぶ意欲を育てるとともに地域の活性化に寄与することができた。
今後の方向性	・多くの事業を青少年活動推進にまとめているため、本事業は継続と積み重ねが大切である。

重点項目	はやしま学推進事業
目 的	地域の方に生涯学習の場を提供するとともに、学びの成果を地域に生かす生涯学習のリーダーを育成する。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業・団体・大学との連携や小学生との合同実施をさらに増やし、地域への愛着や誇りを育てる大人はやしま塾として、学びを通して地域の活性化につながる講座になるよう工夫する。 ・受講者が取得した単位により、サポーターや講師に認定し、講座の運営や講座の企画等に参画できるよう、講師認定者での講座の実施を進める。 ・地元の学習資源の活用や小学生講座との合同実施等を増やすことで、地域を教材に大人と子どもが共に学ぶことができる講座を目指す。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○発信講座数も増やし参加者も増加している。 ○受講者のニーズに合わせた講座内容を発信することができた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・講座認定者の活躍の場を広げていく必要がある。 ・参加者の固定化が進んでおり、新たな受講者の掘り起こしが課題である。

はやしま学推進事業

土曜日等教育支援

- ◆学力・体力向上
 - ・土曜はやしま塾
 - ・わくわくサマーホリデー
- ◆グローバル人材の育成
 - ・土曜英会話塾
 - ・英語暗唱大会
 - ・子どもカレッジ体験
- ◆地域発信の場づくり
 - ・子ども議会
 - ・熟議
 - ・はやしま子どもフォーラム
- ◆ボランティア活動の推進
 - ・「ボランティアパスポート」の活用

放課後教育支援

- ・放課後はやしま塾
- ・放課後子ども教室

学校支援 (はやしま学協働本部)

- ◆授業等の学習支援
 - ・学校行事支援
 - ・授業支援
 - ・学校環境整備
 - ・登下校の見守り
 - ・放課後学習支援

地域未来塾

- ◆地域での学習支援
 - ・はやしま塾
 - ・英語、漢字、数学検定
 - ・Web教材の活用
- ◆地域での体力向上
 - ・総合型地域スポーツクラブ

家庭教育支援

- ◆「親育ち応援学習プログラム」養成講座の開催
- ◆「親プロ」ファシリテーターによる保護者支援
- ◆教育相談活動等の実施
 - ・保護者との教育相談
 - ・ケース会議の実施
- ◆就学前の保護者支援
 - ・プレーパークの定期的な開催
 - ・「すくすくハート」子育て相談
 - ・「子育てサロン」の広報
 - ・ブックスタート
- ◆よりよい生活習慣づくり
 - ・「チャレンジカード」の実施
 - ・「リミットスクリーン」の徹底
 - ・「スタディパスポート」の活用

重点項目	町民総合会館運営事業
目的	町民の芸術・文化意識の向上と地域の活性化を図るため、他課と連携して、様々なジャンルのものを気軽に鑑賞する機会の提供を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の芸術文化拠点として芸術文化事業を開催し、近隣地域を含めた地域の芸術文化振興を行う。 ・「ハヤシネマ」による名作映画の上映を行い、芸術鑑賞を通して町の活性化に繋げる。 ・町民に成果発表の場を提供することを目的に、文化ホールとスタインウェイピアノを活用し、ピアノリレーコンサートを開催する。 ・ウイークエンドコンサートを出演者との協働事業に位置付け、毎月2回実施して活性化を図る。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○予定の事業を実施することができた。内容も充実して参加者に満足していただくことができた。 ○ハヤシネマやウイークエンドコンサートなどの定期開催するイベントも、参加者が増加した。シネマの発券方法やコンテンツの工夫が効果的であった。 ○文化ホールを活用した事業は、実行委員会形式の関連団体との共催事業を中心に実施して地域の文化芸術の振興に寄与することができた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・リレーコンサートやウイークエンドコンサートなど地域住民の参加型のイベントを充実させる。 ・宝くじの補助事業などを活用し、魅力的な事業を発信して文化事業のさらなる充実を図る。

重点項目	図書館運営事業
目的	図書館機能を活かした読書活動の充実を図る。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「第3次早島町子ども読書活動推進計画」に基づき、システム・人的両面で学校園、地域や図書館ボランティアとも連携しながら、子どもの読書活動の推進を図る。 ・読み聞かせや、図書館講座、職場体験等、講座や体験活動の充実を図り、町立図書館にできるだけ多くの町民が来館するための工夫を行う。 ・コロナ禍における電子図書館、資料のデジタル化の有用性や可能性を検証する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○予定通りの開館やイベントを実施することができたが、利用者や貸し出し冊数は伸び悩んだ。 ○図書館アンケートを実施し、これからの図書館に対する町民の意識やニーズをつかむことができた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館アンケートの結果を分析し、利用者のニーズに対応するために必要な新規事業計画を立てる。(電子図書館 資料のデジタル化など) ・学習スペースや閲覧スペースの充実に取り組み、ゆっくり過ごすことのできる図書館の機能を回復する。

各種イベント等の取組

(1) 備中はやしま夏まつり

中央公民館の盆踊り大会から始まったイベント。クラブ・グループによる模擬店と盆踊りコンクールを核にステージイベントや花火で多くの参加者でにぎわうイベントとなった。コロナ禍で3密・飲食を避けるため3年間中止となった。

(2) 早島町民運動会

町内の自治会対抗運動会。コロナ禍で3密・マスク着用のため3年間中止となっている。以前に午前中開催が方向づけられているが、実施に向けては開催後の自治会の親睦会なども考慮する必要がある。

(3) 生涯学習まつり

コロナ禍でも柔軟に実施方法を変え状況にも恵まれたため実施できている。模擬店の開催やクラブ・グループで発表できる状況が開催のポイントになる。

(4) 花ごぎピンポン世界大会

今年度も状況に恵まれ開催できた。中学校との連携を見直し中学校の負担感の軽減が必要。倉敷高校と環太平洋大学との連携の継続の方法がポイントとなる。

(5) 二十歳のつどい（旧成人式）

新成人の実行委員会が企画実施するイベント。本年度は状況に恵まれ実施できた。本年からは名称を改正して20歳の町民を対象に実施した。

(6) マラソン・駅伝大会

早島町のにぎわいづくりのイベントとして実施している。駅伝は中止して、マラソンの5キロ 10キロで実施した。開催も非接触にこだわりウェブエントリーや表彰式の廃止などで感染予防対策を講じて実施した。

(7) 町民ソフトボール大会

自治会や町内企業でチーム編成して出場するトーナメント大会。雨天中止となったが一堂に会するリスクと自治会の選手が集まりにくいことが課題。春の大会は廃止して、秋の1回開催で合意した。

社会教育施設等の取組

(1) 中央公民館・コミュニティ施設

中央公民館・コミュニティ施設は、地域の人々が主体的に学び、交流する場である。また、ボランティア活動・地域コミュニティ活動など地域の社会教育活動を推進する場でもある。社会教育関係団体、スポーツ少年団や子ども会、生涯学習クラブ・グループ、自治会・町内会の活動等、町民の主体的な学びや活動を支援する。

(2) 図書館

町立図書館として早島町内全体の読書環境の充実を図る。また、高梁川流域と岡山連携中枢都市圏の広域相互利用の活用により、地域の中核図書館として近隣住民との連携や交流を図る。

(3) 町民総合会館

町の賑わいの拠点となるように、スタインウェイピアノを使った音楽会、名作映画の上映など文化ホールの自主事業の充実により、心と身体の健康づくりに寄与する。また、ゆるびの舎が町の賑わいの拠点となるように指定管理者制度の導入について検討を行う。

(4) いかしの舎

指定管理者により柔軟な発想で企画・運営を行い、町内観光施設の横断的な運用により充実したサービスの提供を行う。

(5) 歴史民俗資料館・花ごぎ手織り伝承館・戸川家記念館

戸川家記念館と民具館の魅力発信に努める。また、歴史民俗資料館と花ごぎ手織り伝承館の一体的な運営により、花ごぎ手織り技術の伝承に資するように専門職員と技術継承者による取り組みを発信し、手織り技術の保存や情報発信について推進する。

(6) 矢尾グラウンド・ゴルフ場

多くの方が利用しやすいよう、サマータイム（6月～9月）に取り組むとともに、管理運営の在り方についても協議を行い、環境整備等にも配慮していく。

来年度の主要事業スケジュール

令和5年度主要事業の日程

【資料】
生涯学習課

月日	曜日	事業名	場所
5月14日	日	子ども会リーダー研修	城山公園
7月16日	日	アンサンブル早島サマーコンサート2023 in ゆるび	町民総合会館 文化ホール
7月8日	土	吹奏楽フェスティバル2023	町民総合会館 文化ホール
7月 or 8月		親育ち応援学習プログラムファシリテーター養成講座	町民総合会館 研修室
8月5日	土	備中はやしま夏まつり	南グランド
8月～(土曜日)		ハヤシネマ	町民総合会館 文化ホール
9月		第1回・2回古典文学講座	町民総合会館 研修室
10月1日	日	町民運動会	南グランド
10月8日	日	クラブグループ発表／生涯学習まつり(～11/5)	町民総合会館、公民館 等
10月21日・22日	土・日	みんなのスタインウェイ・ピアノリレーコンサート	町民総合会館 文化ホール
10月29日	日	はやしま和太鼓フェスティバル 2023	町民総合会館 文化ホール
11月5日	日	生涯学習まつり・いきいき広場	中央公民館 外
11月11日	土	第4回早島花ござピンポン世界大会	早島中学校
11月19日	日	秋季早島町民ソフトボール大会	南グランド、深砂グランド
12月10日	日	早島ふるさと音楽祭2023	町民総合会館 文化ホール
1月7日	日	早島町二十歳の集い	町民総合会館 文化ホール
1月21日	日	第9回”ゆるび”ニューイヤーコンサート	町民総合会館 文化ホール
1月28日	日	岡山晴れの国駅伝競走大会	旭川・百間川ランニングコース
2月4日	日	第13回早島町マラソン・駅伝大会	早島町役場前
2月18日	日	第24回”ゆるび”コーラスフェスティバル	町民総合会館 文化ホール
2月25日	日	第24回 アンサンブル早島定期演奏会	町民総合会館 文化ホール
3月23日	土	宝くじ「おしゃべり音楽会」	町民総合会館 文化ホール
未定		スタインウェイピアノを使った音楽会	町民総合会館 文化ホール
未定		図書館開館25周年記念講演会	町民総合会館 研修室

※不定期 早島町総合型地域スポーツクラブ 早島小学校体育館・グラウンド 他
 毎月 第3土曜日 プレーパーク ぞうさん広場 等
 毎月 第3日曜日 「家庭の日」南グランド開放
 毎月 第2・4金曜日 ”ゆるび”WEEK END”コンサート 町民総合会館 エントランスホール

IV 第5次早島町総合計画の評価項目について

	第5次早島町総合計画 評価項目	令和3年度	令和4年度
1	ゆるびの舎 近隣市町村を巻き込んだ発表会	1回	4回
2	優れた芸術文化に触れる機会	2回	5回
3	体育施設利用者	230,130人	304,679人
4	スポーツグループ	74団体	69団体
5	スポーツ教室・大会	6回	4回
6	放課後子ども教室参加人数	58人	81人
7	放課後はやしま塾参加人数(延べ人数)	2,111人	2,095人
8	土曜はやしま塾参加人数(延べ人数)	1,072人	1,269人
9	放課後はやしま塾指導者人数	264人	349人
10	土曜はやしま塾指導者人数	158人	195人
11	英会話塾・イングリッシュバス参加者	179人	178人
12	中央公民館・コミュニティ施設利用人数	35,836人	56,399人
13	社会教育施設で新たに活動を始めたグループ	13団体	4団体
14	公民館・図書館講座参加者	424人	728人
15	図書館利用者	22,648人	29,910人
16	戸川家記念館来館者数	155人	236人
17	民俗資料館来館者数	359人	655人
18	まなびの舎新規講師認定者数	2人	2人
19	まなびの舎新規サポーター講師認定者数	0人	1人
20	ゆるびの舎ホール利用回数	174回件	230回
21	ゆるびの舎ホール利用者数	17,501人	24,500人
22	ゆるびの舎トレーニング利用者	7,978人	11,400人
23	ゆるびの舎バーデールーム利用者	5,938人	10,100人

令和5年3月末

■教育委員会活動について

月 1 回の教育委員会会議の定期的な開催や年 2 回の町長との総合教育会議、学校関係者や学校運営協議会委員など様々な立場の方々との熟議を重ねて、教育委員会が地域に開かれて前に進んでいることは、関係各位お一人お一人の当事者意識を高める上で大切であり、欠かせないことでもあります。さらに、教育委員会会議については事前の資料配付だけでなく、議事録の公開まで行ってこられたことは教育の中立性や継続・安定性の保証ができており、その努力に深く敬意を表します。

また、新型コロナウイルス感染症の流行により開催が危ぶまれる中、学びの歩みを止めることのないよう、感染症対策を行った上で「子どもと大人の意見交流会（熟議）」は年々回を重ねるごとに充実してきており、「協働・協学・協育の町づくり」が着実に進んでいると思います。このように、様々な世代が共に語り合う場を継続的にもつことで、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」が育つだけでなく、地域の大人達もそれぞれの立場から課題解決に取り組もうとする「当事者意識」を生み出せているように感じられます。

他にも、学校施設の改修や人的配置については、限られた予算であり、評価にも記載のとおり計画的・継続的に整備を進めていく必要があります。学校の外壁等非構造部材耐震改修工事など、安全や健康面に配慮した改修は必要不可欠です。第 5 次総合計画等の方針に基づき、前向きな取組を意図的・計画的に推進することで「早島町学校教育ビジョン」がさらに充実したものになることでしょう。

■学校教育について

学校教育では、小学校高学年における教科担任制及びチーム担任制を推進するなど、小中学校間に一貫性のある授業づくりが進められています。また、E S D とキャリア教育の視点から、S D G s のゴール目標を踏まえた総合的な学習の時間のカリキュラムや、幼保園・小学校・中学校での非認知能力の育成も着実に進められています。特に、E S D にいち早く取り組んできたアドバンテージを生かして、自治体単位で非認知能力の育成に関する体系化が図られた点は県内でも類を見ない取り組みといえるでしょう。なお、この取り組みが実現できたのは、学校教育ビジョン推進委員会の定期的な開催が背景にあることがわかります。委員会内の 3 部会 9 グループによって、早島町が目ざす子ども像を踏まえた「15 年かけて育みたい力」を明確にすることができたのも早島町のチームワークのなせる業ではないでしょうか。

地域における「はやしま学」では、土曜・放課後はやしま塾、土曜英会話塾など、地域に様々な学びや体験の場が用意されており、スタッフのチームワークのすばらしさに感心しています。また、英語・漢字・数学検定を年 3 回ずつ実施し、英検無料応援制度を設けたことで受験者数が増加していることから児童生徒の学びへの意欲を感じます。英語暗唱コンテストの参加者も増加傾向であり、英語力向上へのニーズの高まりを感じるとともに、こうした機会を設定している「はやしま学協働本部」の充実が模範になるものだと思います。

さらに、G I G A スクール構想の実現に向けて、「教育の情報化推進委員会」を定期的開催し、推進リーダーの育成に努めるとともに、校内で伝達研修を行うことで全教職員の指導力の向上を図ったことは、I C T を活用した児童生徒の主体的で協働的な学びに繋がっているでしょう。今後も、全教職員が全教科で、一人一人に応じた学習や協働学習を積極的に行うことで、誰一人取り残すことのない教育の実現に向けて、計画的・組織的に教員の指導力を高める取り組みをより一層進めてください。

■生涯学習について

早島町では学校教育と生涯学習の融合のもと、学校教育ビジョンの目指す子ども像「地域とつながり、未来を拓く早島っ子」の育成を目指し、全ての町民が学び合い、育ち合う環境をつくることで、「協働・協学・協育」の町づくりを進めています。「第4回花ごぞピンポン世界大会」の取組は、中高校生・留学生・地域の大人と一緒に企画・準備をする中で、伝統文化や郷土への誇りや早島の魅力を発信することができる素晴らしい大会です。また、地域ぐるみによる教育体制の充実を図るために、放課後や土曜日を活用した「はやしま塾」や長期休業中の「わくわくサマータイム」を実施し、子どもたちの知的好奇心を高めていることは、“協働・協学・協育”の町づくりにつながる具体的な方法の一つであり、大きな成果だったと思います。

また、家庭教育支援チーム「すくすくハート」を中心とした保護者の子育て相談、保護者がファシリテーターを務める「親育ち応援学習プログラム」等による親同士の学び合い、就学前の幼児を対象としたプレーパークの定期的な開催など、子育て世代の多い早島町で家庭教育支援が年々高まってきていることも素晴らしいです。他にも、総合型地域スポーツクラブの主体的な取り組みへの移行や、ゆるびの舎での「ハヤシネマ」「ニューイヤークンサート」等芸術文化の提供、図書館活動の充実等、今後の課題も踏まえながら「生涯学習のまち・早島」として、地域の教育力がより一層充実するような取り組みを進めてください。

■今後に向けて

行政・学校園・地域が様々な場を通じて創り上げてきた学校教育ビジョンが浸透し、その取り組みの効果が着実に表れてきていると感じます。今後、早島の教育が未来へ受け継がれ、持続可能なものとなるためには、これまでの取り組みを多面的・複眼的に振り返り、その効果を見極める必要があります。また、その上で各取り組みの内容・方法・構成などをさらに精緻に改善して、「神が細部に宿った取り組み」が早島町で体现できることを大いに期待しています。来年度も、皆様方の素晴らしいチームワークで、本稿で述べた諸事務・事業に対する意見を参考にして、学校教育ビジョンの更なる具現化を大いに期待しています。

VI おわりに

本年度の点検・評価につきましては、事前に教育委員会が立てた方針・目標に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後に評価したものです。各事業の目的・計画を掲げ、それに対する成果と課題、今後の方向性を記載しています。それをもとに、岡山大学 中山芳一准教授から、点検・評価をしていただき、ご意見や今後の方向性についてご示唆をいただきました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が学校教育活動に大きな影響を及ぼし始めて3年が経過する中、小中学校での学習指導要領の着実な実施に伴い、GIGAスクール構想の加速化による一人一台端末の活用や学校におけるICT環境整備を計画的に進めることができました。令和3年1月に中央教育審議会において取りまとめられた「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」においては、学習指導要領を着実に実施する中で、子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子どもたちの多様な個性を最大限

に生かす「協働的な学び」を一体的に充実することの重要性が提言され、これまでの授業実践に加えて、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層推進していくことが重要であると考えています。

本町では、平成25年10月に中長期的な見通しをもった「早島町学校教育ビジョン」を策定し、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」の育成に向けて、「保幼小中の連携強化と小中一貫教育の推進」、「町民とともに学び地域を考えるはやしま学の実施」、「学校園と地域が連携し早島っ子を育てる仕組みの拡充」を3つの重点項目に掲げ、取り組んできました。平成27年度から、早島町第4次総合計画に合わせて、「早島町学校教育ビジョン」を全面実施し、「教育のまち・早島」宣言を行うとともに、その更なる具現化に向けて取り組んでおります。さらに、令和4年度からは、前年度策定された第5次総合計画の実現に向け、「早島町学校教育ビジョン」を、より持続可能な教育活動として推進しています。

こうした中、早島の伝統文化であるイ草とスポーツを融合させた「花ごぎピンポン」のアイデアを生かして、中高生を実行委員とした「世界大会」を開催し、環太平洋大学の留学生や近隣の高校生や地域の方など、大勢の方に感染症予防対策をした上で参加していただきました。また土曜英会話塾、英語暗唱大会などを通して、地域理解や国際的視野を広げてきました。SDGsカードゲームや地域フィールドワークなどを行うことで、生涯学習課と学校教育課との融合のもと、キャリア教育の視点を踏まえて、「協働・協学・協育」の町へと一歩ずつ着実に進んでいると確信しています。

また、保幼小中一貫教育に向け、町全体でESD研究に取り組むことで、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築を図っています。キャリア教育の視点と非認知能力の育成に向けて、中学校区で一体となった研究を進めることは、児童生徒の社会貢献意識を高めると同時に、地域社会の抱える問題を自分のこととして捉え、自己の夢や生き方を見つめなおすよい機会となっています。地域のヒト・モノ・コトと連携・協働した探究活動で児童生徒の活躍の場が学校内外に開かれ、住民の学校理解や児童生徒の郷土愛がより深まっていくことを期待しています

今後も、持続可能な早島の教育の実現を目指して、教育施策や活動事業の点検・評価に、エビデンスから見える現状をきちんと分析・検証し、小中学校の一体的な教育課程の編成に取り組んでいきたいと考えています。これからも、「早島の子どもたちの成長のために」を合言葉に、早島の未来を見据えた教育行政の充実を行政・学校園・地域と一体となって取り組んでまいります。